

有明町は天草上島の北部海岸沿いに位置し、昭和三十一年六月一日島子・下津浦・赤崎・須子・大浦・楠浦の七ヶ村が合併し有明町となり、昭和三十三年一月一日に町制を施行しました。  
本町は、上島の高峰老岳（標高五百八十六尺）及び動鳴山の稜線を境に、東は松島町、南は栖本町、西は本渡市に隣接し北は有明海に面する東西二十四・八、南北三・八五、総面積六〇・二八平方キロの細長い町です。本町の東西に国道324号線が横断しており、交通の便には比較的恵まれています。  
本町の産業は、みかんと水稲を中心とする農業、魚族資源に恵まれた有明海を生かした漁業が中心です。  
総耕地面積（千畝）の四一%を占めるみかんは、温州みかんと甘夏みかんがほぼ半々ですが、特に甘夏みかんは田浦町に次ぐ産地として主要市場で高く評価されています。  
しかし四十七年以来温州みかんの生産過剰により、各産地とも甘夏みかんへの

切替えを行っており、産地間の競争もますます激化することが予想されます。このため経営をいかに合理化し、生産コストを下げ、所得向上を図ってゆくかを大きな課題として、町自体はもちろん、天草第三選果場関係各町、農協で協議会を設置し、生産、防除施設、品質の改良及び統一、流通の合理化等の推進に努力しています。  
一方本町の水田は四百二十八畝で、水稲早期栽培や裏作として県特産地の指定を受けた夏秋きゅうりやレタスの露地栽培を行っています。一部の水田を除いて、島しよ地帯特有の狭い耕地であるため、小型の機械化しかできず、効率的な労力配合ができない状態にあります。このため今後は、土地基盤整備を重点に行っていく計画です。  
漁業は、経営体数百九十七、漁船二百六十七隻で個人経営体が主です。本町沿岸は起伏の少ない浅海で、潮流もやや激しく、タイ、チヌ、スズキ、アジ、コノシロ、タコ、イカなど魚族も豊富で、一

## —— キリシタンと 福祉の里 ——

本釣り、磯建網、手繰網、流し網等の漁法が行われており、一部にはタイ、ハマチ、専エビ、わかめなどの養殖も行っています。一方、施策面では安定的な魚族資源の確保をめざして、第二次漁業構造改善事業による魚礁投入を年次計画で実施しています。

### 明るく住みよい 町づくり

- (1) 町民運動場の建設  
町民の体育向上と融和をより高めるため約五畝の用地を買収、五十三年度から着工、芝生の植こみ、ナイター施設等完備したグラウンドが五十四年度までに完成します。
- (2) 福祉の充実  
「住んでいてよかった」、「生まれきてよかった」……とだれもがいいあえる町をめざして福祉には特に力を入れていきます。  
(イ) 保育所を完備  
町内七地区に町立六、私立一の保育所を設置し、母親の負担を軽減すると共に、幼児教育に力を注いでいきます。  
(ロ) 老人憩いの部屋とヘルパー制度  
本町は全国にさががけて老人ヘルパーを実施しましたが、現在四人のヘルパーが恵まれない老人のために

身の廻りのお世話をしたり、話し相手になったり、活躍を続けていきます。  
また、各地区に設置した公民館には、老人憩いの部屋を設け、気軽に利用できるようにしています。  
文化、史跡、観光など  
有明町には、縄文・弥生・古墳期にかけての土器類、石器類の出土が豊富で、太古から人文の発祥があったことがうかがわれます。  
さらに、寛永十四年（一六三七年）の島原の乱は、本町島子における遭遇戦に端を発したものでキリシタンにゆかしい数々の史跡も残されています。  
一方、毎年十月十六・十九日に行われる上津浦、下津浦、島子、大浦の祭礼には、古式豊かな大名行列や、華麗な太鼓踊り、勇壮な獅子舞が奉納され町内外の見物客で賑わいをみせます。  
また、海の幸に恵まれた本町では、初夏には二百五十年の伝統を誇る「タイ網」や、磯釣り、船釣りの好適場もあり、週末には県内はもとより遠く福岡方面からの釣り人も訪れており、上島第二の高峰老岳は、県の緑地環境保全地域にも指定されており、ウグイスの鳴き声を聞きながら、有明海の北に雲仙岳、不知火海の南に九州連山、パールラインの東に阿蘇火山、天草下島の西に東支那海を眺める絶好のハイキングコースです。



▲有明町基幹作目の甘夏ミカン



▲昭和52年度熊本県ふるさと顕彰をうけた島子太鼓踊り。

▼旧七ヶ村会部に建設された保育所

